

## 20 司書教諭に関する科目

授業科目	学校経営と学校図書館		担当者	岩下 雅子	
	[履修年次] 1年		授業外対応	メールによる	m-iwashita@int.iuk.ac.jp
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】従来の学校図書館からさらに変化し続ける“新しい学校図書館”について理解する</p> <p>【概要】多くの学校図書館の運営事例を校種別に学ぶと同時に、今後の学校図書館の可能性についても様々な角度から考察する。</p> <p>【到達目標】 学校経営の中の学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント配布 (2)				
授業スケジュール	第 1回 学校図書館の理念と教育的意義について学ぶ 第 2回 世界・日本の学校図書館史 第 3回 鹿児島県の読書運動（「母と子の20分間読書運動」と椋嶋十について） 第 4回 学校図書館法と読書に関する法律について 第 5回 第4次鹿児島県子ども読書活動推進計画について 第 6回 学校図書館押さえておきたいポイント①読書センター 第 7回 学校図書館押さえておきたいポイント②学習・情報センター 第 8回 学校図書館押さえておきたいポイント③心の居場所 第 9回 学校経営の中の学校図書館（校務分掌） 第10回 学校図書館の運営 小学校の図書館運営 第11回 学校図書館の運営 中学校の図書館運営 第12回 学校図書館の運営 高校の図書館運営 第13回 学校図書館の運営 特別支援学校の図書館運営 第14回 学校図書館の蔵書構成を考える 第15回 学校図書館をデザインする				
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること				
成績評価の方法	筆記試験(50%) 授業ごとのミニレポート (25%) 課題レポート (25%)				
実務経験について	学校図書館、大学附属図書館で司書の実務経験あり				

授業科目	学校図書館メディアの構成		担当者	岩下 雅子	
	[履修年次] 1・2年		授業外対応	メールによる	m-iwashita@int.iuk.ac.jp
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 多様化した今日の情報メディアを学校図書館でどのように扱うか学ぶ。</p> <p>【概要】学校図書館メディアとは何だろう。学校図書館メディア構築のために適切な情報・資料の選択・収集・組織化をどのように学校図書館は行うかを考察する。</p> <p>【到達目標】 学校図書館メディアの組織化と司書教諭の果たす役割を学ぶ。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント配布 (2)				
授業スケジュール	第 1回 学校図書館メディアの種類と特性（メディアの変遷） 第 2回 学校図書館メディアの種類と特性（メディアの発達） 第 3回 学校図書館メディアの種類と特性（情報と図像学） 第 4回 学校図書館メディアの選択と構成 第 5回 日本十進分類法（分類と件名 0～4） 第 6回 日本十進分類法（分類と件名 5～9） 第 7回 学校図書館と目録（OPAC と書誌情報） 第 8回 学校図書館と目録（OPAC と書誌情報） 第 9回 学校教育の方針とメディア選択 第10回 学校図書館メディアの組織化（読書センター） 第11回 学校図書館メディアの組織化（学習・情報センター） 第12回 学校図書館メディアと探究学習 第13回 特別支援と学校図書館メディア 第14回 学校図書館をデザインする（本棚、分類、配架） 第15回 学校図書館をデザインする（目録～ネットワーク）				
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること				
成績評価の方法	筆記試験(50%) 授業ごとのミニレポート (25%) 課題レポート (25%)				
実務経験について	学校図書館、大学附属図書館で司書の実務経験あり				

授業科目	読書と豊かな人間性		担当者	木戸 裕子
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトークなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 立田 慶裕編著『読書教育の方法—学校図書館の活用に向けて—』学文社</p> <p>(2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる 25 の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 読書教育とは何か：発達に応じた読書</p> <p>第 2 回 読書教育の担い手：学校図書館を支える人々</p> <p>第 3 回 学校図書館の歴史：制度としての学校図書館</p> <p>第 4 回 読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携</p> <p>第 5 回 読書教育の方法 1：就学前・学校全体</p> <p>第 6 回 読書教育の方法 2：教科と読書教育</p> <p>第 7 回 小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ</p> <p>第 8 回 中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的探究の融合</p> <p>第 9 回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション</p> <p>第 10 回 発達を支える読書：特別支援教育との関係</p> <p>第 11 回 読書活動 1：読書案内、ブックトーク、ブックリスト</p> <p>第 12 回 読書活動 2：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング</p> <p>第 13 回 読書活動 3：パネルシアター、紙芝居</p> <p>第 14 回 実演 1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p> <p>第 15 回 実演 2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p>			
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。			
成績評価の方法	課題提出 (50%) と、授業第 14 回、15 回での実演 (50%)			

授業科目	情報メディアの活用		担当者	竹本 寛秋
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】</p> <p>テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。</p> <p>学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリント。</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 高度情報化社会と人間：情報化社会と司書教諭の役割</p> <p>第 2 回 情報メディアの歴史の変遷</p> <p>第 3 回 学校教育と情報メディア</p> <p>第 4 回 情報メディアの種類と特性</p> <p>第 5 回 情報メディアの選択：状況に応じた選択の必要と留意点</p> <p>第 6 回 視聴覚メディアの活用</p> <p>第 7 回 情報メディアの活用 1：コンピュータの活用と運用</p> <p>第 8 回 教育メディアの活用 2：教育用ソフトウェアの活用</p> <p>第 9 回 情報メディアの活用 3：データベースと情報検索</p> <p>第 10 回 情報メディアの活用 4：インターネットと情報検索</p> <p>第 11 回 情報メディアの活用 5：インターネットによる情報発信</p> <p>第 12 回 情報セキュリティ</p> <p>第 13 回 ネットワーク環境と学校教育</p> <p>第 14 回 学校図書館メディアと著作権</p> <p>第 15 回 まとめ：情報メディア活用の課題と将来</p>			
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。			
成績評価の方法	授業での課題 (30%)、期末試験 (70%)			
実務経験について	高等学校、高等専門学校に教員として勤務			